

地域自主防犯活動活発化事業

実施結果報告書

1 団体名	篠目町内会
2 事業名	安心・安全な住み良い篠目町を目指して
3 事業実施 結果	当町内会区域は、知立市と境界を接する安城市北西部に位置し、住宅、企業、店舗等が混在する地域である。また、複数の主要地方道が縦横し、国道1号線やJR・名鉄の主要駅から至近であるため、他の地域からの人・車の流入は非常に多い。 犯罪については、過去5年、特殊詐欺被害が毎年発生しているほか、侵入盗や自動車関連の窃盗被害も慢性的に発生しており、既述の地理的特性からも、これら被害の更なる発生が強く懸念される状況にある。 本年度、安城市より市条例に基づく犯罪抑止モデル地区に指定されたことを契機に、安心・安全な住み良い篠目町を目指して、市、警察及び地域団体等と連携し、区域一丸となって各種自主防犯活動に取り組んだ。 （1）パトロール体制の強化と活動の活発化（A事業） 篠目町安全防犯パトロール隊は、現在、小学生の登下校時における青色パトロール車を活用した見まもり活動を年間200日以上、徒歩による防犯パトロールを年2回それぞれ実施しているが、活動の活性化・持続化のため、パトロール時に活用する「のぼり」を新調するとともに、町内会だよりなどで各種自主防犯活動を取り上げ、隊員の意欲向上、住民への啓発と活動の周知を図った。   新調した「のぼり」を持ってパトロール

(2) 時機や行事の機会を捉えた防犯啓発活動（B事業）

ア 夏季の連れ去り被害防止に係る啓発活動の実施

町内の保育園児に防犯標語入り七夕短冊に願いごとを書き入れてもらい、その短冊を安城七夕まつり会場に掲示して啓発活動を行ったほか、町内夏祭りでは連れ去り防止の合言葉「つみきおに」を配した「防犯わなげ」を設置し、多くの児童に遊戯しながら連れ去り対策を学んでもらうことができた。

七夕会場での防犯短冊掲示



「防犯わなげ」



イ 「夏休みカギかけスタンプラリー」の開催

夏休み期間中、町内居住の小学生以下の児童を対象に、自宅や自転車に鍵をかける習慣を学んでもらう「夏休みカギかけスタンプラリー」を開催した。

5日間の実施をもってラリー達成とし、児童向けの景品を用意した。



スタンプラリーカード

ウ 高齢者への啓発活動の実施

敬老の日のお祝い品に合わせ、町内の高齢者 300 人に対し、特殊詐欺への注意を促す啓発品を配付したほか、町内の小学生が祖父母に向けた特殊詐欺被害防止メッセージはがきを作成し、注意を呼びかけた。



祖父母に向けたはがき作成

エ この他、町内の高齢者やパトロール隊を対象に特殊詐欺や侵入盗被害に遭わないための防犯講座を開催し、具体的な対策方法やパトロール時の注意点等について学んだ。



市職員や警察官による防犯講話

(3) 住民や営農組合等と連携した地域安全活動（C・D事業）

ア 防犯スタンプウォークラリーの開催

町内住民を対象に、防犯クイズに答えながら町内を巡る「スタンプウォークラリー」を開催した。約 120 人の参加者は、「みんなでまもろう篠目町」とデザインした特製の缶バッジを身に付け、篠目町の防犯に関する〇×クイズに答えながら町内約 6 キロを歩いた。



おそろいの特製缶バッジ

スタンプウォークラリーの様子



ぼうはん〇×クイズ

クイズにこたえて篠目町をまもろう！
※各スタンプ地点（①～⑦）で答え合わせができるよ！

- 篠目八幡宮** はんばいにくし らもく
今年度、篠目町は「犯罪抑止モデル地区」である
- 作野井財天** ぼうはんあつがう けいさつ
防犯活動は警察だけがやればよい
- ソウ公園** もっと はっせい ひがひ あみず
昨年、篠目町で最も多く発生した被害は「空き巣」である
- 作野コミュニティ** くら はんばい へ
20年前に比べて犯罪は減っている
- 作野公民館** よくしめさず ひがひ はっせい
篠目町では令和元年から毎年「特殊詐欺」被害が発生している
- ホテルの館** けいさつ 〇×
篠目町には青パトがある
- 水の駅** けいさつかん
「こども119番の家」には警察官が住んでいる

防犯クイズ

ここでもパトロール隊の
新規隊員募集の呼びかけ！

問題⑥ 篠目町には青パトがある

答えは〇だよ！

⑥ ホテルの館

【解説】
1台あります。篠目町安全防犯パトロール隊が防犯パトロールに活用しています。
活動にご協力を！新規隊員も募集中！

イ 営農組合車両への地域安全マグネットシートの貼付

日頃農作業等で町内を通行する営農組合の農作業車等に「地域安全パトロール中」のマグネットシートの貼付を依頼、「地域の連帯感」と、ながらパトロールによる「地域の目」の強化を図った。

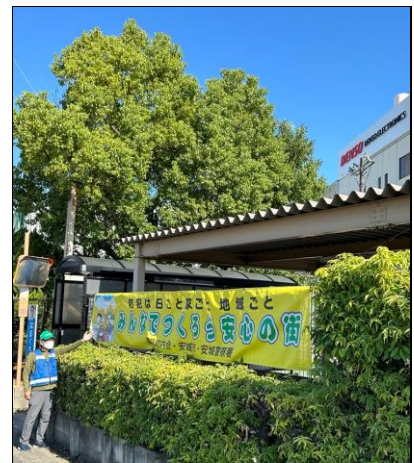
営農車両の「地域の目」化



(4) 犯罪防止環境の整備 (E 事業)

4月に実施した「まちの防犯診断」(防犯設備士、警察、市及び町内会による、防犯上の危険箇所の点検)の結果を踏まえ、町内全戸に配付した「防犯プレート」の各戸掲示や、町内企業や学校等に地域安全横断幕を設置した。

各戸配布・掲示の防犯プレート



デンソーエレクトロニクスへの地域安全横断幕の設置

4 成果と課題 及び今後の 取組み	(1) 事業実施の成果及び課題 ア 成果 (ア) 防犯パトロール活動への理解 各種防犯活動や町内会だよりにより、多くの町民に隊の存在や活動が周知、理解され、町民から積極的に不審者・犯罪情報が寄せられるようになったほか、隊員への労いの言葉をいただく場面も増え、隊員のモチベーション向上と隊活動の活性化につながった。 (イ) 防犯環境の改善 全戸配付した防犯プレートは町内のほとんどの世帯で掲示されたほか、地域安全横断幕の要所への設置、市による緊急防犯カメラやLED防犯灯の増設等とも併せ、町内の防犯環境の改善に大きく寄与した。 (ウ) 防犯意識の高揚 防犯キャンペーン等の各活動は新聞や地元ケーブルテレビで度々報道され、諸活動の実施と相まって町内全体での防犯意識の高揚につながったほか、広く市内外に「篠目町は防犯意識の高いまち」であることを発信できた。 イ 課題 (ア) 刑法犯認知件数の増加 ここ数年毎年発生していた特殊詐欺被害こそ防いだが、コロナ禍の行動制限が解除され、県内各地で犯罪の認知件数が増加傾向にある中、篠目町においても前年同期比で21.8%（R6.11末・速報値）増加した。ただし、モデル地区事業により防犯環境が改善しつつあり、また町民の防犯意識も高揚しているため、引き続き、市や警察から支援を受けながら刑法犯認知件数の減少に繋げたいところである。 (イ) コミュニティ外の町民への働きかけ 町内には高齢者の居住も多く、また老人会に属していない（コミュニティ外にある）方が散見される。町内会未加入者（主に若年層）と同様、地域との接点が少ない町民への効果的な働きかけ方策を模索しなければならない。 (ウ) 持続化に向けた担い手の確保 町内会活動全般にも言えるが、防犯活動を持続していくためには、「担い手の確保」が依然として大きな課題である。 (2) 今後の取組み 上記課題を踏まえ、町内行事等に併せた啓発や情報発信を行うなど、引き続き市・警察・地元団体と協働しつつ、町内における自主防犯活動の活発化と持続化に取り組みたい。
----------------------------------	--